

かがやく瞳

No. 6号

発行日 平成30年11月20日
発行責任者 豊福 猛
編集 社会福祉法人
北見福祉会広報委員会

〒090-0835 北見市光西町178-5
TEL 0157-57-5057
FAX 0157-57-4767

じょうぶな体の子ども ゆたかな心の子ども のびのび遊ぶ子ども

子ども達の将来のために 何とかしなきゃ…。

11月も中旬を迎え、秋の深まりを感じるこの頃です。道内では例年になく記録的に初雪も遅かったようです。また、今年は春から、例年とは違う気象が見られました。5月に管内で気温30℃を超えたり、6月下旬には梅雨前線が北海道に停滞し大雨に見舞われたり、また、記録的な大雨が続いた西日本の豪雨では大きな土砂災害が発生し、200名を超える方が犠牲になりました。さらに、7月末からは毎週のように台風が発生し、9月末から10月にかけての週末は、台風被害が続出しました。これらの異常気象は「地球温暖化」が原因と報道されています。

「地球温暖化」という言葉は、40年程前から聞かれるようになりました。

当時は気象学者が長年のデータで気温の上昇を知る程度で、私たちには体感できないものでした。また、温暖化による異常気象の予測もありましたが、当時は現実味のない話として受け止められていたようです。しかし、現在は竜巻やゲリラ豪雨が発生して、「線状降水帯」「爆弾低気圧」など、新しい気象用語も頻繁に聞かれるようになりました。台風も例年とは違う動きで、伊豆諸島に沿って発達しながら本州に上陸し、北上するなど、誰もが異常気象と実感できるほど変化してきました。

地球の環境破壊は、250年程前の産業革命の頃から始まったと言われていています。今後の環境保全の取組により、以前の地球環境に戻すことや環境破壊を完全に止めることは難しいかもしれません。

しかし、子ども達の将来を考え、環境の悪化を遅らせる手立てを講じるのは、親として、また、私達大人としての責任であると考えているところです。



見て、触れて、やってみて学ぶ

小学校以降の学校教育では、教える教育から観察や体験を通し、自分で気付いたり感じたりする中で、知識や技能を身に付ける教育が重視されています。これは、『アクティブラーニング』と言われるもので、言葉による理解が未熟な子どもを対象にしている幼児教育界では、小・中学校以上に大切にされています。

前号の「かがやく瞳」では、0歳児が遊びを通し身体機能を発達させ、また、人とのつながりを培っていく、アクティブラーニングについて紹介しました。アクティブラーニングとしての遊びは、もう少し大きくなった子ども達にとっても、同様に大切です。それは、友達との触れ合いや力を合わせ楽しむ中で好ましい人間関係を築いたり、集団遊びを通しきまりがあることを知り、守ろうとする気持ちを持ったりすることができるからです。

自由遊び以外にも、普段のこども園での生活の中では、学びの機会はたくさんあり、その代表的なものが戸外活動の散歩です。

子ども達が大好きな散歩は、「自分で見たり触れたりしながら、新しいことを発見できる絶好の学びの機会」と言えます。教えられたことはすぐに忘れてしまいますが、散歩に出かけ触って感じたり見つけて驚いたりしたことは、簡単には忘れません。そればかりか、小さな子どもなりに、気付いた事に興味や関心を持ち、疑問さえ持つこともできそうです。

また、散歩は発見ばかりでなく、「挨拶」を通して地域の方々との交流の場になり、正しい歩道の歩き方や安全な横断歩道の渡り方を知る機会になり、さらに、季節ごとの自然との触れ合いでは、豊かな情操を育てることもできます。

散歩では、目的地まで漫然と歩くのと、出発前に「〇〇公園の桜は咲いたか見てこよう。」と子ども達に投げかけて、目的を持って行くのでは、戸外活動の価値は大きく変わります。期待感を持ち、開花した桜を見た子どもは、桜の美しさに気づいたり、季節の移り変わりを意識したりするかもしれません。



北見福祉会の各こども園では、アクティブラーニングを意図的、計画的に進めることを目的として、「教育・保育要領」に基づく力の育成を目指しています。また、目指す子ども像の実現のため、子ども達の発達過程（成長段階）を踏まえた、教育及び保育の5領域の指導計画を作成しています。

こうした指導計画の作成により、夕陽ヶ丘・光西・みなみの3園の子ども達は、卒園までに同じ内容の教育を受けることができ、また、成長に見合った取組により、無理なく幼児期の教育で求められる力の育成が可能になると考えています。「戸外活動に関する指導計画」の一部を下表で紹介します。

散歩（戸外活動）は、教育の「環境」の領域になり、クラスごとの取組内容や目標は、次の通り設定しています。（平成30年度の指導計画、特に「環境」から抜粋しています。）

クラス	身に付けさせたい力や、感じ取らせたいこと
0～1歳	◎春の温かな日差しの心地よさ、夏の暑さ、冬の風の冷たさなどを肌で感じ取る。
2歳児	◎暖かな日差しの心地よさや、花壇の花を見て春の訪れなど、各季節の特徴の凡そを知る。 ◎歩道の正しい歩き方、信号機の見方と横断歩道の安全な渡り方を知る。
3歳児	◎桜の開花、新緑、紅葉など、樹木の変化に気付く中で、季節の移り変わりを知る。 ◎安全な歩行とともに、目的地までの道順を知るとともに、地理や大きな建物に興味を持つ。 ◎地域の方々との、また、訪問先での正しい挨拶を通し、地域とのつながりを深める。
4歳児	◎季節により変化する樹木や身近な昆虫の観察を通し、自然への興味や関心を持つ。 ◎こども園周辺の地理とともに大きな建物、看板の文字、道路標識などに興味を持つ。 ◎訪問先の公共施設での挨拶や礼儀など、正しい行動式を身に付ける。
5歳児	◎季節による草花、樹木の変化や栽培植物の生長の観察を通し、自然界の不思議さへの気付きから、その理由を予想したり考えてみたりする。 ◎店の看板を見て、文字や数字に興味を持ったり、道路標識のマークの意味を考えたりする。 ◎北見市の様子を知るとともに、訪問した大きな都市を友達に紹介し、皆で違いを考える。

指導計画の作成により、目標や目的を明確にした散歩が可能になり、活動を楽しむ中で、「気づく」、「発見する」、「疑問を持つ」など、子ども達に多くの力を身に付けさせることができます。

上記の指導計画の文中に、「～を知る。」、「～身に付ける。」の表現があります。これらは繰り返し教えることで、知識や技能として身に付けることはできそうですが、「～に興味や関心を持つ。（高める。）」、「～を深める。（意識を持つ。）」は心情を育てることで、言い換えれば『非認知能力』の育成でもあり、教えて身に付けることは難しいことと言えます。

お詫びしま～す

前号では、頑張る心や意欲、優しさ、興味や関心を持つ気持ち、探求心などを『非認知能力』と呼ばれていることを紹介しました。また、詳しくは、本号でお知らせする予定でしたが、紙面の都合で次号掲載となりました。お詫び致します。

各園での「こども達の様子」をちょっと紹介しましょう。

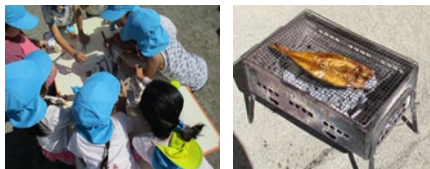
☆☆夕陽ヶ丘認定こども園☆☆



《楽しかった汽車の旅》

10/10（水）は5歳児の子どもたちが『特急大雪2号』（帰りは普通列車）に乗って生田原ちゃちゃワールドで遊んできました。汽車は初めての子が多く、窓からの景色に「車より早い！」と興奮気味。みんなでカブラの大きな塔を作り、「来年のひまわりさんが来た時も、残っていたらいいのになぁ」と話していましたよ。

☆☆光西認定こども園☆☆



《秋の味覚を楽しんだ収穫祭！》

10/5（金）青空の下で、秋の味覚であるサンマとホッケをお腹いっぱい食べました。豚汁とおにぎりも外で食べて大満足！ やっぱり炭火で焼いて食べる魚はサイコーですね☆



☆☆みなみ認定こども園☆☆



《ごっこあそび》

10/6（火）・7（水）ごっこあそびを開催しました。年長クラスは「ディズニーランド」を計画。パスポートを持って、入場ゲートをくぐれば、そこは夢の国♡ポップコーンやカチューシャを買って、ショーも満喫。中でも、スプラッシュマウンテンは大人気！！店員やお客さんになって、ごっこの世界を楽しみました。